
戦争は人を救えない

赤神 裕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦争は人を救えない

【Nコード】

N4249Q

【作者名】

赤神 裕

【あらすじ】

戦争で人を救うことはできない。

どちらかが勝ちどちらかが負けるまで戦争は続いていく。

戦争は起こしてはいけない、起こせば待つのは絶望のみだ……。

戦争の事について語ってくれたおばあちゃん。

そして、未来を切り開いてくれたその言葉。ありがとう。

(前書き)

今回は少しリアルじみたものを書きました。戦争の事について少しでも分かってもらえたら……。それでは、どうぞ。

「まったくバカな人だよ、あの人は」

おばあちゃんが椅子に座りながら急に話し始めた。何事かと思い振り返ると、椅子の上で編み物をしているおばあちゃんの姿があった。メガネをかけていて補聴器も付けている。目も耳も戦争のせいで悪くなったのだと聞かされていた。

「あたしはね、あの人がした事はこの国を救おうとしたことなのだから責めやしないよ。だけどね、戦争に行き戦争が原因で亡くなってしまったのは許せないね」

おそらくおじいちゃんの事を言っているのだろうと僕は思った。

おじいちゃんは僕が生まれる前に戦争の傷が原因で亡くなった。丁度僕が生まれる三年前のことらしい。だから僕はおじいちゃんの事を写真でしか見たことないし、どんな性格なのかもわからない。優しかった。ただそれだけしか聞いていない。おばあちゃんは編み物をする手を止めた。そして僕の顔を見る。

「あんたは、優しく強い子になるんだよ？ ケンカはしてはダメ。戦争がおこりそうだったら真っ先にそれを否定しなさい。おじいちゃんはそれをしなかったから、後に後悔したの。戦争は繰り返してはならないの」

当時の僕にはまだ何のことか解らなかった。だけど、今になってはつきり分かる。戦争――。

それは人を傷つけ愛す人をなくし帰る場所さえも奪ってしまう残酷なもの。戦争まで行かなくともケンカは戦争の序章となる。同じように大切なものをなくしてしまう。それを見つけれなくては残るは絶望しかない。今、僕の頬を涙が伝う。それは悲しいからではない。自分が醜いからだ。人生を放り投げ自殺しようとも考えたあの時の自分は一体何だったのだろうか。本当の自分ではなかったのかもしれない。

その後、普通の日常を取り戻した僕は優しく強い子になると誓った。
とある絶望から這い上がってきた、夏の暑い日の事だ。

（後書き）

いかがでしたか？

戦争というものは決してなくなることはありません。本文にも書いたようにケンカも戦争の一つなのです。するなとは言いませんが、極力避けていただきたい。残るのは絶望のみですから……。

※このストーリーはフィクションです。登場人物は作者とは一切関係ありませんのでご了承ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4249q/>

戦争は人を救えない

2011年1月26日12時20分発行